Book Review

眼瞼・結膜腫瘍アトラス

後藤 浩 著

「今日，外来で見た腫瘍はきっとこのなかに載っている！」，魅力ある帯の文言。さっそく本書を開いてみると，昨日診察した結膜血管腫の患者さんとほとんど同じような写真が……さすが後藤浩先生と思いました。これだけ多くの種類の腫瘍の写真がすべて東京医大で撮影されたとのこと，どれだけ多くの患者さんが受診されているのでしょうか？　また，全ての患者さんにこんなに美しい写真を撮影されていること，病理組織像を管理されていることも驚愕に値します。

本書は，眼瞼腫瘍，結膜腫瘍の 2 部で構成されています。まず，総論として，眼瞼腫瘍，結膜腫瘍に対してどのように診察すべきかを，診察のコツとして記載されています。続いて各論として眼瞼腫瘍，結膜腫瘍の各種疾患が列記されています。総論では東京医大における膨大な数の統計を基に，各疾患の頻度を知っておくことの重要性を強調されています。次に良性・悪性の見分け方のポイントとして好発年齢，腫瘍の見た目，そして経過を記録としてきちんと残しておくことの大切さ（これがなかなか難しいですね）を記載されています。最後にどのように治療戦略を考えるかについて，全摘出，生検，専門施設への紹介，どの手段を選択すべきかを理路整然，かつ誰が読んでもわかりやすく記述されています。

各論は良性腫瘍，悪性腫瘍，鑑別診断として非腫瘍性疾患を列記する形で構成されています。各論において特筆すべき点は，各疾患についてたくさんの症例を提示することにより，まさに診療における疑似体験ができる点ではないでしょうか。同じ疾患でもさまざまな臨床所見を呈することがあり，診断に自信を持てない場合が多いと思います。本書では数多くの症例を提示することにより，バリエーションの多さを読者が実感できる仕組みになっています。しかも，それぞれの疾患で病理組織像を提示されており，眼科専門医試験にも役立ちます。臨床像，ワンポイント病理学の項目での解説，ポイントを箇条書きにしている点も，読者が頭を整理できるように組み立てられています。「ひとり言」と題するコラム，実はここに伝えたいことが隠されているのかもしれません。

最近では各種眼疾患で画像を中心とした書籍が増えました。しかし，眼腫瘍，特に一般診療で必ず遭遇する眼瞼腫瘍・結膜腫瘍に特化した書籍はなかったように思います。しかも，昔からアトラスというと，お堅いイメージがあるのですが，本書は読者にとって非常にフレンドリーで，後藤先生のイメージされた通りのアトラスに仕上がっています。明日から，外来診察室で必携の書籍となることは間違いありません。

高知大教授・眼科学
福島敦樹

A4・頁 176　2017 年 10 月
定価：本体 12,000 円＋税
［ISBN978-4-260-03222-3］　医学書院刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2018

2026/11/11 09:32:11